

中日理論言語学研究会第23回「文法のあり方を問う」
(2010年10月17日(日) 於同志社大学大阪サテライト)

文法と言語外世界・文法と会話

定延利之(神戸大学)・
羅米良(大連外国語学院・神戸大学院生)

1. はじめに

(1) 「伝統的」な文法観

- a. 文法は会話あるいはコミュニケーションから独立

Chomsky (1975) Searle

- b. 文法は言語外世界のあり方から独立

Chomsky (1957) "Colorless green ideas sleep furiously." は文法的。

"Furiously sleep ideas green colorless."は非文法的。

(2) 「伝統的」でない文法観

- a. 談話語用論 Givón (1979) "Today's syntax is yesterday's pragmatic discourse."

- b. 「煩悩の文法」 定延 (2008)

2. 体験の文法

(3) 言語情報(命題内容)上の連続的区分「知識」～「体験」(cf. 定延 2002)の紹介 地球は赤かった。

- a. 現在は地球は青いが、太古の昔は地球は赤かった。

←「そうだ。赤かった」「いや、昔から青かった」など、「赤かったかどうか」を誰でも問題にできる。(賛否は別として)情報の共有可能性が高い。

- b. [宇宙飛行士が記者会見で]

帰還前に私はふと、足もとの地球を見た。なぜか地球は赤かった。

←「そうだ。赤かった」「いや、赤くなかった」などと情報を共有できるのは同行した者だけ。地上にいた者は「赤かったに違いない」「赤かったはずはない」などと言うしかない。

- c. [宇宙ステーションの居住者が催眠術にかかった時を振り返って述懐]

気がつくと窓の外のは月は緑色だった。そして地球は赤かった。

←辛うじて本人が「あれは自分の間違いで、地球はだったかも」などと言えるぐらい。情報の共有可能性は低い。

(4)

- a. 大連的海蛎子很好吃。 a'. 大連の牡蠣はとてもおいしい。(知識的)
b. 大連的海蛎子真好吃。 b'. 大連の牡蠣はホントおいしい。(体験的)
c. 听说大連的海蛎子很好吃。 c'. 大連の牡蠣はとてもおいしいそうだ。
d. *听说大連的海蛎子真好吃。 d'. 大連の牡蠣はホントおいしいそうだ。

2. 1. 体験の文法は我々の「生」に基づいている

(5) モノの存在場所は「に」、デキゴトの存在場所は「で」。状態はデキゴトではない。

- a. 庭に木がある。
b. ??庭で木がある。
c. ??庭にパーティがある。
d. 庭でパーティがある。

(6) 体験なら状態はデキゴトになる。私たちがそれを生きるから。

P S 3 が結構売れ残っているっていう噂をきいたことがあるんですが、本当でしょうか？ 都内では見たことないんですが。

(質問日時：2007/1/5 14:39:14 質問番号：10,419,930 質問した人:rondakaiさん)

きのうゲオでありましたよ!!

(回答日時：2007/1/5 21:13:49 回答番号：33,957,931 回答した人:ss_turbo1800さん)

[調査日:2008年5月27日, URL: http://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/question_detail/q1010419930]

2. 2. 体験の文法は我々の「会話」に基づいている

(7) 「面白い」体験しか語れない(ワクワク型)。

- a. 4色ボールペンなら北京でありましたよ。
b. 木なら庭でありましたよ。

(8) 「面白い」体験しか語れない(ワクワク型)。

- a. [見知らぬ街をうろついて] なんか、レストランがしょっちゅうあるね。
b. [自宅付近の様子を教える] うちの近所はレストランがしょっちゅうあります。

(9) 「面白い」体験しか語れない(ヒリヒリ型)

- a. この娘, ろくろ首で, さっきからときどき首が長い。
b. あの人, さっきからときどき声が大きいの。注意してもらえる?

(10) 「面白い」体験しか語れない(ヒリヒリ型)。

- a. とにかく苦いばかりで, 少しもおいしくなかった。
b. ただもう苦いばかりで, 少しもおいしくなかった。
c. ちょっと苦いばかりで, 少しもおいしくなかった。
d. かすかに苦いばかりで, 少しもおいしくなかった。

2. 3. 体験の文法は「自然／不自然」の境界が入り組んでいる

(11) 「から」は明確な知識の表現なら事態の開始時点。それ以外はデキゴトの開始時点。

- a. 3時から部屋が暗い。 ← [前提・焦点] 読みなら～
- b. 3時から部屋が暗かった。
- c. 朝から腹が痛い。
- d. 夜から腹が痛い。
- e. 昨夜から腹が痛い。

(12) 会話に基づく「自然」領域の特徴

伝統的な「自然」領域 vs. 会話に基づく「自然」領域
OBラインで囲まれた「区画」 vs. 踏み固められた道
「慣用句」は周辺 vs. 「慣用句」的

2. 4. 入り組みのない体験の文法 — タ形変化文

(13) 知識の表現としてのタ形変化文

シリウスBは数十万年前に白色矮星になりました。 天文学的に言えば、これはごく最近のことです。

(14) 体験の表現としてのタ形変化文（変化前状態の想起）

- a. たとえば、山小屋を見て、
267 a) この山小屋はいたんだね。
b) この山小屋はいたんでいるね。

と、どちらでもいえる。ただし、その意味はおなじではない。aは以前のいたんでいない状態からの変化をふくんでいるが、bはかならずしもそうではない。はじめてみた山小屋についてもbは可能であるが、aは不可能である。

[鈴木 1979: 47]

- ・「体験者の特権性」を指摘。
- ・「情報の確信度」の話ではないことを例文で示唆。
- b. (給湯室の前を通ったら、誰が沸かしたかはわからないが、やかんの中のお湯が沸騰状態にある)
あれ、お湯が沸いてる。／??あれ、お湯が沸いた。

[井上 2001: 106例文(28c)]

- ・「情報の確信度」の話ではないことの示唆を徹底。
- ・「体験者の特権性」が「対人的な配慮」という考えでも説明し尽くせないことを示唆。
- ・現象の本質が（終助詞と関係しつつも）終助詞それじたいにはないことを示唆。

2. 5. まとめ

体験の文法のうち、知識の文法とはっきり食い違う部分（状態をデキゴトとして扱えるかどうか）は会話に根ざしており、「自然」領域が入り組んでいる。知識の文法と食い違

わない部分（タ形変化文）は、「自然」領域が入り組んでいないように見える（図1）。
 では、知識の文法は「自然」領域が「区画」としてとらえきれるのか？

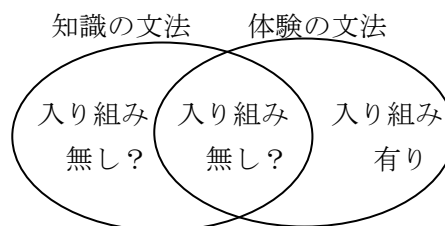


図1: 知識の文法と体験の文法それぞれにおける「自然」領域の入り組み

3. 知識の文法と言語外世界

3. 1. 「カンの悪い」「教育のない」インフォーマント

(15) 調査票に従って進めていると、ある時、「啞者」という単語が出てきた。[中略] ところが、「その複数形は？」とたずねると、インフォーマントは、こともあろうに、「それは言えない」と言うのである。「なぜか？」と問い返すと、「私は、啞者は一人しか知らない」と答えるのであった。一瞬、頭に血がのぼったが、表面上はなんとか平静を保つことができた。これは、私が最も嫌っているタイプのインフォーマントであると、その時思った。こちらが何を知らうとしているかには、おかまいなしなのだ。[中略] そこで、この名詞に「背の高い」という形容詞をつけさせることにした。[中略] とすると、わがインフォーマント氏は、またしても、「それも言えない」と言うのである。[中略] 「でも、もし（「もし」に傍点）いたらどうする？」ときり返すと、彼は「ムー」と考えて、「それはムニャルワンダ（＝ルワンダ人）に違いない！」と答えるのであった。[中略] ルワンダの独立前後から、それまで鬱積していた短身族の長身族に対する不満が爆発し内乱となり、多くの長身族がザイル側に逃げてきた。[中略] こういった状況の中で、現実には存在しない、少なくとも生まれてこのかた見たことのない「背の高い啞者」を言えと言われたので、純朴なわがインフォーマント氏は、何とか主人（ブワナ）の望みをかなえようとして、一所懸命考えたあげく、「それはムニャルワンダに違いない」と答えたのであった。[中略] 彼の言語に対する考えは、常にこうであった。言語と現実を混同するのである。[中略] 「啞者」の複数形は？とたずねられれば、自分の全言語生活をふりかえってみて、自分がそれを言ったことがあるかどうか、あるいは、誰かが言ったのを聞いたことがあるかどうかチェックしないでは、答えることはできなかつた。いくら言語と現実は違うんだと言っても、彼は納得しない。[中略] こういった言語に対する態度は、彼固有のものではない。テンボの人たちは多かれ少なかれそうであった。彼らはアフリカの奥地で、地にへばりつくようにして生きている。彼らにとっては、すべてのものが具体的である。抽象的なものが考えられないということではない。たとえ目に見えない死者の霊であれ、それは恐れ、そして敬う対象となる。そしてコトバとは、それによって喜び、悲しみ、生きるものであって、言語学者のお遊びは許されない。[中略] 実際のところ、言語を客観的にとらえることができるのは、せいぜい言語学者と哲学者ぐらいなもので、現実の話者はそんなことはしない。この単語はこれを指して、あの単語は…と考えだすと

話しはできない。言語使用者にとっては、言語と現実をいかにうまく混同するかが、スムーズな、そして豊かな言語生活を営むための前提条件となるのだ。[梶 1992a, b]

3. 2. 中国語の文法判断の異質性 (定延 2009; 中川 2010)

(16)

[「彼は最近、何をやってるんですか?」と言われて]

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| a. <u>壁</u> に日本語を教えています。 | a'. *他教 <u>墙壁</u> 日语。 |
| b. <u>犬</u> に日本語を教えています。 | b'. ?他教 <u>狗</u> 日语。 |
| c. <u>ワンちゃん</u> に日本語を教えています。 | c'. 他教 <u>小狗</u> 日语。(ペット) |

(17)

- | | |
|--------------------|---------------|
| a. 私は子供に騒がれた。 | a'. ??我被孩子吵了。 |
| b. 私は子供に騒がれて目が覚めた。 | b'. ?我被孩子吵醒了。 |

(18)

- | | |
|-------------------------------|-----------------------|
| a. 雨に降られた。 | a'. *我被雨下了。 |
| b. 雨に降られて濡れた。 | b'. *我被雨下得湿了。 |
| | cf. 我被雨淋(湿)了。 |
| c. 雨に降られ(て外出できなかつ)た。 | c'. 我被雨下得出不了门。 |
| d. 油麻地の人々はすでに雨に降られて(神経が)麻痺した。 | |
| | d'. 油麻地的人早被雨下得麻木了, …。 |

[《骚雨/痴雨》 6 (1), http://vip.book.sina.com.cn/book/chapter_38935_22612.html, 2010年10月13日]

(19)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| a. 人不犯我, 我不犯人。 | a'. ??ひとは私を犯さない、私はひとを犯さない。 |
| b. 人不犯我的话, 我也不犯人。 | b'. ひとが私を犯さなければ、私もひとを犯さない。 |

(20)

- | | |
|-----------------------------------|---------------------|
| a. 你办事, 我放心。 | a'. ??あなたがやる、私は安心だ。 |
| b. <u>因为</u> 是你办事, <u>所以</u> 我放心。 | b'. あなたがやるので、私は安心だ。 |

(21)

- | | |
|--------------------------|------------------|
| a. 他来, 我走。 | a'. ??彼が来る、私は帰る。 |
| b. 他 <u>要是</u> 来的话, 我就走。 | b'. 彼が来るなら、私は帰る。 |

(22)

- | | |
|---------------------------------------|--|
| a. 我要陪一陪费太太, 她有东西要收拾。 [林语堂《红牡丹》] | |
| a'. ??私は(これから)費さんにつきあいます、彼女が荷物を片付けます。 | |
| b. 我要陪一陪费太太, <u>因为</u> 她有东西要收拾。 | |
| b'. 私は(これから)費さんにつきあいます、彼女が荷物を片付けますから。 | |

(23)

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| a. 王冕七岁上死了父亲。 | a'. 王冕は7歳の時父に死なれた。 |
| b. ?王冕七十岁上死了父亲。 | b'. ?王冕は70歳の時父に死なれた。 |
| cf1. 王冕七十岁上他的父亲死了。 | cf1'. 王冕が70歳の時彼の父は死んだ。 |
| cf2. 王冕, 七十岁上父亲死了。 | cf2'. 王冕は、70歳の時父が死んだ。 |
| cf3. 王冕七十岁上经历了父亲的死。 | cf3'. 王冕は70歳の時父の死を経験した。 |
- [中国語の例はSHEN (沈) 2006 : 295]

(24)

- | | |
|---------------------|--------------------------|
| a. 蝶儿在花丛中飞舞。 | a'. 蝶が花畑を飛び回った。 |
| b. *青虫在花丛中飞舞。 | b'. ??青虫が花畑を飛び回った。 |
| c. 青虫羽化成蝶(后)在花丛中飞舞。 | c'. 青虫が蝶になって花畑を飛び回った。 |
| d. 化成蝶的青虫在花丛中飞舞。 | d'. (?)蝶になった青虫が花畑を飛び回った。 |

(25)

- | | |
|-------------|--------------------|
| a. 小王吃了野猪。 | a'. 王さんがイノシシを食った。 |
| b. 野猪吃了小王。 | b'. イノシシが王さんを食った。 |
| c. 小王吃了西瓜。 | c'. 王さんがスイカを食った。 |
| d. *西瓜吃了小王。 | d'. ??スイカが王さんを食った。 |

3. 3. 日本語再発見 (似たようなことは日本語にもあるはず cf. 井上 2001; 2002)

(26) 実現可能性とイメージ可能性は別物

- | | |
|------------------|----------------|
| a. ??奇数が2で割り切れる。 | 実現不可能だがイメージは容易 |
| b. ??男が妊娠する。 | 実現不可能だがイメージは容易 |
| c. ??川が遅れる。 | 実現不可能でイメージも困難 |
| d. ??分数が早退する。 | 実現不可能でイメージも困難 |

(27) 実現不可能性を言い立て、それを不問にする構文: 「～はずがない」

- | |
|---------------------|
| a. 奇数が2で割り切れるはずがない。 |
| b. 男が妊娠するはずがない。 |
| c. ??川が遅れるはずがない。 |
| d. ??分数が早退するはずがない。 |

(28) イメージ不可能性を言い立て、それを不問にする構文: 「～というのは意味不明だ」

- | |
|--------------------------|
| a. 奇数が2で割り切れるというのは意味不明だ。 |
| b. 男が妊娠するというのは意味不明だ。 |
| c. 川が遅れるというのは意味不明だ。 |
| d. 分数が早退するというのは意味不明だ。 |

(29) 中間的な構文：「～なんてありえない」

- a. 奇数が2で割り切れるなんてありえない。
- b. 男が妊娠するなんてありえない。
- c. %川が遅れるなんてありえない。
- d. %分数が早退するなんてありえない。

(30) イメージ（論理さえ）の可能性は文化的なもの

実験者：蜘蛛と黒鹿はいつも一緒に食事をします。いま蜘蛛が食事をしています。黒鹿は食事をしていますか？

被験者：蜘蛛と黒鹿はヤブの中にいるのか？

実験者：そうです。

被験者：一緒に食事しているのか？

実験者：蜘蛛と黒鹿はいつも一緒に食事をします。いま蜘蛛が食事をしています。黒鹿は食事をしていますか？

被験者：しかし私はその場にいたわけじゃない。どうしてそんな質問に答えられるのかね？

実験者：答えられませんか？ その場にいなくても答えられるでしょう。（質問を繰り返す）

被験者：あっ、そうか、黒鹿は食事しているよ。

実験者：黒鹿が食事していると言うのはどういう理由からですか？

被験者：黒鹿は1日中歩きまわってヤブの中の緑の葉を食べているからだ。ちょっと休むとまた起きて食べまわるからだ。

[クペル(Kpelle)の論理調査Cole *et al.* 1971: 185-7. cf. Lave 1988; Lave and Wenger 1991]

3. 4. まとめ

日本語であれ中国語であれ、知識の文法の「自然」領域にも入り組んだ部分があり、それらは知識の文法が（言語外世界ではなく）イメージ世界と結びついているという形で理解できる。一見、言語外世界のあり方をなぞっているに過ぎないように思えるインフォーマントの「文法」判断は、実は言語外世界のあり方をなぞっているのではなく、調査者とは異なる文化を背景として、調査者とは異なるイメージ可能性を反映していると考えることができる（図2）。

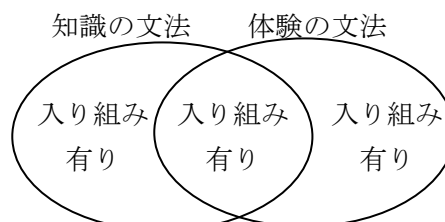


図2: 知識の文法と体験の文法それぞれにおける「自然」領域の入り組み

言及予定文献

- Chomsky, Noam. 1957. *Syntactic Structures*. The Hague/Paris: Mouton.
- Chomsky, Noam. 1975. *Reflections on Language*. New York: Pantheon Books. [井上和子・神尾昭雄・西山佑司 (1979訳) 『言語論 — 人間科学的省察』. 東京: 大修館書店.]
- Cole, Michael, John Gay, Joseph A. Glick, and Donald W. Sharp. 1971. *The Cultural Context of Learning and Thinking: An Exploration in Experimental Anthropology*. New York: Basic Books.
- Givón, Talmy. 1979. "From discourse to syntax: Grammar as a processing strategy." In Givón, Talmy (ed.), *Syntax and Semantics*, 12, New York: Academic Press, 81-111.
- 井上 優 2001 「日本語研究と対照研究」, 日本語文法学会(編)『日本語文法』1-1, 東京: くろしお出版, 53-69.
- 井上 優 2002 「「言語の対照研究」の役割と意義」, 国立国語研究所(編)『日本語と外国語との対照研究X 対照研究と日本語教育』, 東京: くろしお出版, 3-20.
- 梶 茂樹 1992a 「アフリカをフィールドワークする」第1回, 『言語』, 21-1, 東京: 大修館書店, 12-18.
- 梶 茂樹 1992b 「アフリカをフィールドワークする」第2回, 『言語』, 21-1, 東京: 大修館書店, 106-112.
- Lave, Jean. 1988. *Cognition in Practice: Mind, Mathematics and Culture in Everyday Life*. Cambridge: Cambridge University Press. [ジーン・レイヴ(著), 無藤隆・山下清美・中野茂・中村美代子 (1995訳) 『日常生活の認知行動 — ひとは日常生活でどう計算し、実践するか』, 東京: 新曜社.]
- Lave, Jean, and Etienne Wenger. 1991. *Situated Learning: Legitimate Peripheral Participation*. Cambridge: University of Cambridge Press. [ジーン・レイヴ&エティエンヌ・ウェンガー(著), 佐伯胖 (1993訳) 『状況に埋め込まれた学習』, 東京: 産業図書.]
- 中川正之 2010 「白紙から話を始める中国語」, 中日理論言語学研究会発表資料, 2010年10月17日, 同志社大学大阪サテライト.
- 定延利之 2002 「「インタラクションの文法」に向けて — 現代日本語の疑似エビデンス —」, 『京都大学言語学研究』, 21, 147-185.
- 定延利之 2006 「文章作法と文法」, 『國文學 — 解釈と教材の研究』, 51-12, 東京: 學燈社, 79-85.
- 定延利之 2008 『煩惱の文法 — 体験を語りたがる人びとの欲望が日本語の文法システムをゆさぶる話 —』. 東京: 筑摩書房.
- 定延利之 2009 「中国語話者の文法判断」, 立命館孔子学院主催「中国語の話」中川正之先生とゲストのトークショー第6回, 2009年4月11日, 中野記念ホール(京都).
- SHEN Jiakuan (沈家煊). 2006. The generative mechanism of sentences like Wangmian died father (王冕死了父亲): Sentence generation by blending in Chinese, *Chinese Language* (中国语文), 313, 291-300.
- 張 黎 1997 「什么是意合语法?」 『汉语学习』97, 58-61.